



新横浜駅の不自然な業務体制を

あらためるべきである！

新横浜駅業務体制見直しについて申し入れ

会社は、新横浜駅の業務体制を見直して、営業第二の介助業務を内勤補助業務として営業一科社員が行うことを明らかにしてきました。

しかし、営業一科は要員が増えるわけではありません。今までの業務にくわえて介助業務がこなせるのか疑問です。そして介助業務が支障すれば利用される乗客に対するサービスの低下にもつながります。また営業第二も今後退職者がでることが予定されています。

営業一科と営業第二とに組織を別にする意味があるのでしょうか？

現在営業第二は、新横浜駅の他の部署とはロッカーも点呼場も詰め所も別にされており、まるで隔離されているかのようです。その理由も明らかにされていません。

この際、お客様へのサービスのため、また安全のため、このような不自然な状態を改め営業一科と営業第二を一つにするべきです。

JR東海労は本日、新横浜駅の業務体制を見直しについて会社に申し入れを行いました。

《主な申し入れ事項》

- 営業一科と営業第二を区分けせず一つの業務区分とすること
- 車椅子等介助業務と遺失物業務を今後ともJR東海直営で行うこと